

# 「ヒヤリ・ハット」体験事例

集計期間：平成21年8月～平成22年7月

分類：収集運搬  
事故の型：転落・転倒

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策	対策結果
1	現場	トラックに積み込み作業中	荷台に乗る時に足が滑り転落しそうになった。	足元に注意。十分な確認をするように心掛ける。	安全に作業が出来ている。
2	施設内	廃棄物の入ったトン袋を開けてホッパーに投入する時	トン袋と共に自分も落ちそうになった。	トン袋から直接ホッパーに投入するのではなく、ダンプ車に廃棄物を開けてから投入する。	落下する危険がなくなり、作業がしやすくなった。
3	現場	廃棄物を収集している時	古い家なので、床の木が腐っていて、足が床に踏み込みそうになった。	床など腐っていそうな時は、足場板などの養生をしてから作業をする。	作業に集中できる。
4	施設内	同乗作業員が、大型トラックの助手席から、降りようとしている時	足を滑らして、落下した。	あわてずに足元に十分注意をする。	それからは、事故は無くなった。
5	現場	トラックのシート掛けをしている時	足を滑らして、落下しそうになった。	周囲と足元をよく確認し、落ち着いて作業を行う。また、他の者も同様のことが、発生する可能性があるため、今回の事例について、ミーティング時に注意喚起した。	同種の報告は、少なくなり改善効果が認められる。
6	駐車場	4tトラック荷台の確認のため荷台に乗ろうとした時	足を滑らして、転倒しそうになった。	足元の確認を徹底し、昇降時は梯子等の踏み台を使用する。	安全に作業が出来ている。
7	現場	コンテナ入替えをしている時	搬出用コンテナに飛散防止用ネットを取り付け、コンテナから降りる際 足元が滑り危うくこけそうになった。	あわてて飛び降りようとせず、バランスを考え慎重に降りることを徹底する。	安全に作業が出来ている。
8	工場内	10tコンテナにシートをかけている時	コンテナの上から落下しそうになった	コンテナの上でシートを広げる時は、バランスの悪いコンテナの端などに乗らないようにして、なるべく下からシートをかけるようにする。	確認を徹底した結果、事故の危険性がなくなった。
9	現場	10tコンテナ車に木くず梱包材を積載した時	荷物をワイヤーで固定する際に足を滑らせて転落しそうになった。	荷崩れしないように、重機で積むときに安定のいいように積載する。荷物の上に乗るときは安定がよいか確認しながら乗るようにする。	安全に作業が出来ている。

分類：収集運搬  
事故の型：衝突・接触

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策	対策結果
1	処分場	パッカー車の積み荷を降ろす為、荷降ろし場ゲートへバック走行している時	ゲートの自動扉が完全に開ききっていなかった為、車体の操作ボタンが扉と接触しボタンの一部が破損した。	処分場へは毎日2台で行っているため、荷降ろし場内へは1台ずつ2人で入り1人が車体の後ろへ行き安全確認をする。	約2年経過しましたが、荷降ろし場内での事故はありません
2	現場	荷物を降ろしている時	足元の荷物に足をぶつけた	作業場の確保。周りをよく見てから作業する。	目の前だけの事だけに集中せず、視野を広く持つことで事故などを防げるようになった。

3	施設内	業者が廃木材処分しに来た時	集積場まで車をバックして入る時、作業している人に気がつかず、急ブレーキをかけた。	車をバックさせる時は、誘導者を常に配置する。	スムーズに作業ができています。
4	工場内	廃棄物を降ろしている時	他の作業員に当たりそうになった。	荷を降ろす時にもう一度降ろす場所に人がいないか確認すること	確認を徹底した結果、事故の危険性がなくなった。
5	施設内	コンテナを新設する時	バックで進入するところで、明るい場所から暗い倉庫内に入るときに、中の状況が分かりにくく、物に当たりそうになった。	後方の状況が分かりにくい場合は、降りて後方確認をするか、後方確認者を1人つけて作業をする。	安全に作業が出来ている。
6	施設内	コンテナを設置する時	後方確認をおこたつたために置いている荷物にぶつかりそうになった。	コンテナを設置する際は、コンテナを降ろす前に場所を確認して、地盤がしっかりしているかや後方にぶつかりそうな物がないかを確認してから設置する。	安全に作業が出来ている。

分類：収集運搬  
事故の型：飛来・落下

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策	対策結果
1	施設内	10tコンテナの新設の際に	歯止めを入れ忘れたため、コンテナが転がり落ちそうになった。	コンテナを新設した際は、前が車輪の場合は必ず歯止めを入れる作業の徹底と確認をする。	確認を徹底した結果、事故の危険性がなくなった。
2	施設内	コンテナ入替えのとき	フックでコンテナを引っかけた際に、正確に引っ掛かっていなかった為にコンテナが脱落しそうになった。	コンテナを引っかけた時に正確に引っ掛かったかを確認してからコンテナを引揚げようにする。	確認を徹底した結果、事故の危険性がなくなった。
3	工場	ガラスの波板をレッカーで積込み中に	ガラスのくずが落ちてきて足に当たりそうになった。	前もって上に乗っているガラスくずなどは取っておく。そして、積込み最中に割れそうなガラスは途中で割れないように梱包する。	安全に作業が出来ている。

分類：収集運搬  
事故の型：挟まれ・巻き込まれ

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策	対策結果
1	駐車場	2tコンテナ車で新しい空コンテナを2t車に積み込む作業中に、バックしたとき	コンテナを積み込む為、車両をバックしたときに車両の死角に作業員がいたため車両を停車させた。	車両をバックさせるときは、周辺を最初に確認した上で作業する必要がある。またバック時も安全を常に確認し、また後方に作業員がいないかと意識を持つ必要がある。	車両を運転しバックさせるときは、まず周辺を確認した上で、車両は出来るだけゆっくりとバック時も常時安全確認を行い作業することとし、また、周辺に作業員がいるときは、事前に作業に入ることを周知徹底しておくこととしたため安全に作業することが出来るようになった。

分類：収集運搬  
事故の型：交通事故

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策	対策結果
1	工場内	運転中に	脇道から原付が飛び出してきて、接触しそうになった。	脇道があるところは、原付や車が出てくるかもしれないと思い、速度をゆるめて確認しながら走行する。	確認を徹底した結果、事故の危険性はなくなった。

2	工場内	運転中に	道路のアスファルトがけずれて穴があいていたため、そこでハンドルをとられて対向車にぶつかりそうになった。	道路の修理をお願いする。また、道路に異物が落ちていたり、穴があいていないかを確認しながら運転するようにする。	確認を徹底した結果、事故の危険性はなくなった。
3	工場内	運転中に	交差点で他のトラックと接触しそうになった。	交差点では安全確認を十分に行い、譲り合いの心を持って運転を行う。	確認を徹底した結果、事故の危険性はなくなった。
4	一般道	収集しているとき	反対車線から車が来て、接触しそうになった。	十分左右の安全確認をする。	スムーズに仕事ができる。
5	一般道	ダンプで帰宅途中	走行中に前を無灯でトラクターが走っていた。急ブレーキをかけて事故は何とかまぬかれた。	夕方はなるべく早めの点灯、スピードは出さない。	早めの点灯により、事故の危険性はなくなった。
6	一般道	右折待ちをしているとき	対向車が停止して道をゆずってくれ、右折しようとしたら対向車の脇から原付が飛び出してきて接触しそうになった。	道を譲ってくれたからと言って慌てて右折するのではなく、一呼吸おいて安全を確認してから行動する。	行動前に安全確認ができるようになり、「~だろう」ではなく、「~かもしれない」と意識を持って自己防衛運転が出来るようになった。

分類：収集運搬  
事故の型：その他

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策	対策結果
1	工事現場	コンテナ新設作業中に	後方確認をしようとトラックを降りた時に、足を捻挫しそうになった。	足元の安全確認を怠らず、安全行動を心掛ける。そして、作業前の準備運動なども徹底しなければならない。	確認を徹底した結果、事故の危険性はなくなった。
2	工場内	荷物を工場内へ運搬しているとき	飛散防止用ネットをはずしているときに、ゴムひもが顔にあたりそうになった。	過度にひっぱってのゴムバンドの固定は、はずす時に危険であるのと、ゴムバンドの破損の原因となり切れて顔にあたる事になる。日常の点検を行い、不良品は交換する。	確認を徹底した結果、事故の危険性はなくなった。
3	工事現場	10tコンテナにシートをかけるときに	シートゴムがコンテナ横へ引っ掛かって、無理矢理引っ張ったらゴムが飛んできて、顔に当たりそうになった。	シートを掛けるときに、シートゴムがコンテナ横に引っ掛かりやすいので、その時は、無理に引っ張らずに緩めてから取るようにして、安全確認を心掛ける	確認を徹底した結果、事故の危険性はなくなった。
4	工事現場	10tコンテナで手積み作業をしているときに	粉じんが少しあって、吸い込みそうになった。	粉じんが発生しそうな時は必ず防塵マスクの着用を徹底する。作業前に積み込む荷物と作業手順の確認。	確認を徹底した結果、事故の危険性はなくなった。
5	工事現場	10tコンテナヘクーリングタワーを積込みする際	後方扉が開いていたため、コンテナが歪んで修理が必要になった。	次回からは、コンテナの扉をしめて荷物を投入し、必要以上に重機などで押さえつけないようにする。	事故の危険性はなくなった。
6	工事現場	荷物を引取り、シートをせずに出発しようとしたとき	シートなどが飛びそうになった。	少しでも飛びそうな荷物が入っていたら、必ずメッシュシートをかける。	スムーズに仕事が出来ている。
7	工事現場	4tコンテナ車で混合ゴミを引き上げに行っているとき	飛散防止ネットをかけている時に、軍手を着用していたが、中に入っていた混合ゴミの中に釘などが飛び出していたので、手などを切りそうになった。	混合ゴミなどは、中に何が入っているか分からない場合は、普通の軍手ではなく皮手を着用するようにする。	確認を徹底した結果、事故の危険性はなくなった。

分類：中間処理  
事故の型：転落・転倒

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策	対策結果
1	施設内	タイヤショベルに乗っている時	タイヤショベルから降りようとして、足を滑らした。	慌てず足元に注意して行動する。	スムーズに仕事ができている。
2	施設内	車から降りるとき	足元を見ていなかったため、石でつまづき捻挫しそうになった。	足元にはいつも注意をはらう。	スムーズに仕事ができている。
3	工場内	手積み作業中に	雨で鉄板が濡れていて、滑りやすくなっているところで転倒しそうになった。	天候に見合った服装及び保護具の着用。無理のない作業姿勢で行い不安全行動をなくす。	スムーズに仕事ができている。
4	工事現場	移動式クレーンを使用中	荷物が重たすぎて、片側のアウトリガーが浮きそうになって転倒しそうになった。	事前に重量を的確に把握し、適切なクレーンを手配する。地盤の確認が必要。また、地切作業の実施	確認を徹底した結果、事故の危険性はなくなった。

分類：中間処理  
事故の型：衝突・接触

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策	対策結果
1	工場内	トラックの廃棄物を降ろしているとき	上から長い木が落ちてきて当たりそうになった。	廃棄物を降ろす時は、十分に距離をとる。	危険性はなくなった。
2	工場内	タイヤショベルを運転中に	事務所が死角で計量機から降りてきた車と接触しそうになった。	死角をなくすためにカーブミラーを取り付けた。	死角がなくなり、事故がなくなった。
3	処分場事務所前	機械オペレータを呼ぼうとしているとき	慌てて事務所から飛び出した時、収集運搬車両と接触しそうになった。	女子社員に社内教育をし、事務所内にトランシーバを置いてオペレータとの連絡を密に取り合った。搬入車両には徐行を促し、プラント内の目の届く箇所、曲がり箇所には徐行の標示プレートを設置した。	事務所から飛び出してオペレータを呼びに行くことが少なくなった。しかし、日々搬入車両には声をかけています。また、女子社員にも日々注意することを心掛けております。
4	工場内	リフトを運転していた時	コンボと接触しそうになった。	お互い連絡を密にとる。また、コンボの旋回範囲内に入らない	現在のところ、接触事故は起こっていない。
5	工場内	コンテナを引き上げの際	コンテナ後方に物が置いていたため、コンテナと物が接触しそうになった。	コンテナを引き上げる際は、コンテナのまわりを先に確認して引き上げる。	スムーズに作業ができている。
6	工場内	10tコンテナを降ろす際に	工場の高さが低かったため、工場の梁に当たりそうになった。	高さの低いところなどは、安全確認の作業指示者を1人つけて安全確認を確実に実行	確認を徹底した結果、事故の危険性はなくなった。

分類：中間処理  
事故の型：飛来・落下

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策	対策結果
1	事業場内	アスベスト含有簡易検査を行っている際	時間に追われて急いで作業していたら、手がすべって薬品容器を足元に落としかけた。	作業工程に応じて必要薬品のみを取り出す。作業台の整理整頓を徹底する。更に想定できる事態での保護具は完全に着用すること	スムーズに作業ができている

分類：中間処理  
 事故の型：挟まれ・巻き込まれ

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策	対策結果
1	施設内	ショベルで再生土移動中に	横と後ろに作業員がいて巻き込みそうになった。	運転手は念入りに周囲を確認し、作業員には重機の周辺に立ち入らないよう指示する。アイコンタクトをする。	重機作業中、極力入らなくなり、移動時にはアイコンタクトをとるようになり、ヒヤリハットが減った。
2	工場内	仕分け作業中に	重機の後ろのキャタピラに挟まれそうになった。	重機の周りに近寄らないようにすること	スムーズに作業が出来ている。
3	工場内	コンテナに荷物を積み込むとき	後方扉を開けるときに扉で指を挟まれそうになった。	設置場所が水平でない場合は、扉が思わず動力で動き手を挟んだりすることがあるので事前に状態を把握し、作業に着手する。	スムーズに作業が出来ている。
4	工場内	10tコンテナに手積みをしている際に	後方扉を開けていたが、ロックピンがはずれて、顔を強打しそうになった。	ロックピンを入れた時に、確実にロックできているか確認してから作業にかかるとのこと。	スムーズに作業が出来ている。
5	工事現場	積み込み作業中に	手がすべって荷物の間に手が挟まった。	無理な作業姿勢で行わない。足元、手元を十分に確認すること。積荷は安定な状態で積み上げる。	スムーズに作業が出来ている。

分類：中間処理  
 事故の型：その他

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策	対策結果
1	施設内	溶接をしているとき	部材が濡れていて電気がきた。	部材は濡れた状態で使用せず、常に乾いた状態で溶接をする。	電気のことは気にせず、溶接に集中できる。
2	施設内	廃棄物を手選別しているとき	手袋が布製だったので、手に廃棄物が刺さり怪我をした	手選別するときは、手元に注意し、皮手などを使用する。	その後、怪我もなく作業ができています。
3	施設内	分別作業中に	長尺の軽量骨材をゴミの山から引き抜いた時に、くの字型になっていた為、足を怪我した。	ゴミの型をよく見極めてから作業をする	その後、怪我もなく作業ができています。
4	事業場内	アスベスト含有簡易検査を実施中、薬液を入れて混合する際に	ピーカーを勢いよく振りすぎて薬液が飛びはね、肌につきそうになった。	机の上の整理整頓、保護具の完全着用。慣れてくるほど、気が抜けてくるが常に手順の確認を行う。	確認を徹底した結果、危険性はなくなった。
5	工場内	安全靴を履いて荷物の上で作業を行っているとき	釘が飛び出ている、足に刺さりそうになった。	重機にて分別作業を行う。仕方がない場合は、必要以上に荷物の上に乗らず展開検査をして危険部を確認する。	確認を徹底した結果、危険性はなくなった。

分類：最終処分

No	どこで	何をしているとき	なぜ、どうなった	その後の対策	対策結果
1	処分場の入口付近	搬入車両が道路から施設へ進入しようとしているとき	ほぼ直角に曲がろうとハンドルを切った際に後輪がバーストした。	車の近くに人が近づかない様にする。すり減ったタイヤの早めの交換を運転者に伝える。	スムーズに作業が出来ている。